№J2221

『カンボジア「クルー・チャッタン」の時代―ポル・ポト時代後の初等教育―』

中京大学　講師

千田　沙也加

2022 年度出版助成を受けて、『カンボジア「クルー・チャッタン」の時代−ポル・ポト時代後の初等教育−』を 2023 年 2 月に東信堂より刊行した。本書は、平成 30 - 31 年度りそな･アジアオセアニア財団の研究助成をうけて実施した調査研究に基づく成果である。

本書は、ポル・ポト政権期（1975−1979 年）後の国家の復興・再建期であり、社会主義体制下であったヘン・サムリン政権期（1979−1989 年）の初等教育再建について、緊急の対応で教師に任命された「クルー・チャッタン」とよばれる人たちの経験と認識から、実証的に明らかにするものである。

ポル・ポト政権期後のヘン・サムリン政権期は、荒廃から新たな社会主義国家の建設という固有の文脈にあった。これまでカンボジアの教育に関する先行研究の多くは、この時期を単に内戦期としてきた。そして、多くの教育開発にかかわる応用研究において、教師たちは「質の低い教師」と一般化され、ステレオタイプ化されてきた。この傾向は、多様な教師の理解を遅らせ、３０年に亘る教育開発にもかかわらず、カンボジアの教育実践に本質的な変化がみられないと指摘される。「質の低い教師」とされた発端は、ポル・ポト政権期の知識人の喪失と、ヘン・サムリン政権期の大幅な資格緩和により採用された教師、「クルー・チャッタン」に遡る。そこで本書は、教育史の空白を「クルー・チャッタン」の経験と認識から埋めることを目的とした。

本書は、「クルー・チャッタン」により、あらゆる知識や技術が現実的な方法で次々と用いられて、初等教育が再建したことを明らかにする。そして、「クルー・チャッタン」の間に、学歴が高く知識の豊富な教師を含む共同体意識があることと、彼／彼女らが知的な相互扶助の実践家であることを示す。本書の刊行は、教育史の空白を埋めるとともに、歴史を遡り個々の教師たちの教育実践を理解する意義がある。そして、個別の教師の歴史は、読み手に対し「良い教師とは何か」という普遍的な議論に対峙させ、人間形成をめぐる学際的な可能性を拓くことが期待される。